

SDGsとは？



目標 15 陸の豊かさを守ろう

“陸の豊かさを守り、砂漠化を防いで、多様な生物が生きられるように大切にしよう”

鳥類 14%、針葉樹 34%、哺乳類 25%、両生類 41%が絶滅の危機にさらされていると推定される割合です。

出典：2019 Global Assessment Report on Biodiversity and Ecosystem Services (生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学 - 政策プラットフォーム) (IPBES)



SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) は、「誰一人取り残さない (leave no one behind)」持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標です。2015年の国連サミットにおいて全ての加盟国が合意した「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中で掲げられました。2030年を達成年限とし、17のゴールと169のターゲットから構成されています。

3 認知症地域支援推進員のつばやき No.63  
備えのいろいろ

日常生活の様々な場面で考える“備え”。みなさんはどんな備えが思い浮かびますか。  
最近、災害や地震に関するニュースが目立ち、それに対する備えとして多くの人が関心を持っていることと思います。飲料水の確保や連絡先、避難場所を決めておくことなどが頭に浮かびます。特に老後はお金でしょうか。そして、誰でも歳をとるなかで、一人暮らしの生活になるかもしれないから、どんな住まいがあるか調べておこうと考える人もいます。これらの住まいや貯蓄の残高など、目で見てわかることは、備えることとして気づきやすいかもしれませんが、それに加えてぜひ考えてほしいのが、認知症になったときの備えです。  
もの忘れによってATMの操作がわからず貯金を引き出せなくなったり、自分のことを自分で決められなくなった時、何を誰に助けてもらうか考えたことはありますか。自分の財産や、物事を決める権利を守るための制度に成年後見制度があります。災害や地震などに備えて物品を用意することに加え、制度を知ること大切な備えになってくるのかもしれない。

私たちはここにいます！ 認知症地域支援推進員配置施設

- 利根町地域包括支援センター ☎68-8941
- 利根町保健福祉センター ☎68-8291
- 複合施設 響 ☎61-8500
- 介護老人保健施設もえぎ野 ☎84-6081



**庁舎の大規模改修工事を実施しています。**

平成元年に建設された庁舎（築35年）は、庁舎内外に経年劣化が見受けられているため、令和2年度から改修費用の積立てを行い、大規模改修を行っています。工事期間中は、各種窓口に支障が無いように工事を進めます。今後、各課事務室の移転や工事工程に変更がある場合には、随時、町ホームページや広報紙でお知らせします。

長期にわたる工事に、ご理解とご協力をお願いします。

▼庁舎の概要 竣工 平成元年7月  
構造 鉄筋コンクリート（一部鉄骨）造り  
地上5階、地下1階  
▼工事の概要 外壁改修工事・屋上防水改修工事・電気設備工事・空調調設備工事  
▼契約金額 8億7千780万円  
▼工事完了期間（予定） 令和7年3月

▼問い合わせ先  
財務課 ☎68-2211 内線354



男女共同参画ってなあに？ Part 115

育児からみるワーク・ライフ・バランス

◇ワーク・ライフ・バランスってなんだろう？◇

ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）とは、「仕事」と「生活」（家事や育児、介護、趣味や自己啓発などの仕事以外の時間）との調和がとれていて、どちらも充実していることです。

これは、仕事と生活どちらを重視するか、ということではありません。「生活が充実すると、仕事もがんばれる」「仕事があまくいけば、私生活も潤う」といった相乗効果を得ることです。

◇では、育児に関する最新の情報をみてみましょう。◇

- 6歳未満の子供をもつ共働き世帯の家事関連時間（週平均）（※1）  
妻……………6時間10分（2016）→6時間33分（2021）  
夫……………1時間24分（2016）→1時間55分（2021）
- 第1子出産前後の女性の継続就業率（※2）  
57.7%（2010~14）→69.5%（2015~19）
- 男性の育児休業取得率（※3）  
7.48%（2019）→12.65%（2020）→13.97%（2021）  
データをみてわかるように、出産しても仕事を続ける女性の割合は増えていますが、男性の育児への参加については、まだまだ進んでいません。  
内閣府が2023年に実施した世論調査（※4）では、男性が家事・育児等に積極的に参加するために必要なこととして、「男性の育児・家事など職場における理解を進めること」が最も多く回答を集め、次いで「夫婦や家族間でのコミュニケーションをはかること」が多くなっています。  
共働きの世帯が増加し、子育てにかかわりたいと思う男性の方も増えてきている中で、育児に関わろうとする本人だけでなく、その周りの家族、職場の上司や同僚などが、ワーク・ライフ・バランスを考えたいろいろな視点を持つことで、男女が共に仕事と子育てを両立できる環境づくりが実現できるのではないのでしょうか。

※1 総務省「社会生活基本調査」（2021）  
※2 国立社会保障・人口問題研究所「第16回出生動向基本調査」（2021）  
※3 厚生労働省「雇用均等基本調査」（2021）  
※4 内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」（2023）

問い合わせ先 政策企画課 政策企画係 ☎68-2211（内線338）



特別授業で大学生と対話する 梶原悠未選手（左）



献血サポーターのスペースデーモンさん（左）と魔女メグさん（右）

**梶原悠未 & 日本ウェルネス スポーツ大学 献血イベント**

令和5年8月21日(月)日本ウェルネススポーツ大学（WS大学）にて献血の日に合わせて、献血イベントが開催されました。主催者は2020年東京五輪自転車トラック種目女子オムニウム銀メダリストで、日本ウェルネススポーツ大学専任講師の梶原悠未（かじはら ゆうみ）選手です。梶原選手とWS大学生が献血を行い、献血をした学生には梶原悠未選手のオリジナルポストカードや協賛品がプレゼントされました。

イベントの狙いとしては、スポーツ事業やアスリート等、これからスポーツに関わる学生たちに、献血を通して社会貢献の大切さを体験してもらおうという狙いです。

そのほか、「競技の気付きを社会の気付きに、あなたのチームワーク力を社会に還元する方法」と題し、ワークショップ形式で社会貢献についての講義も行われました。講義にて、同じようにスポーツに真剣に取り組んでいる学生から「大舞台で競技をするときに、緊張に対してどう向き合いましたか」という質問がありました。それに対し「東京オリンピックでは、会場の真ん中に立ち360度周りをグルッと見回して他のアスリートを見てみると、自分だけではなく誰も緊張と戦っていることが分かって、それに気付けてから落ち着いた気分が挑むことが出来た」と梶原選手の経験に基づく回答もいただきました。

梶原悠未選手は2024年パリオリンピックも出場予定で、今後ますますの活躍が期待されます。